

平成 16 年 12 月吉日

小郡三井医師会

会長 丸山 泉 先生



福岡県対がん協会

会長 齋藤 貴生

拝啓

師走の候となりましたが、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

さて、本年 9 月末に福岡市において第 63 回日本癌学会が開催されましたが、その市民公開講座において、当協会は特別企画展示として「県民とともにがん征圧を」を供覧させていただきました。

好評だったこともあり、展示しましたパネル 7 枚のコピーおよび要約をお送りしますので、ご覧いただければ幸いです。

この展示のために、当協会のがん検診で発見されたがん患者 4086 名の方々（昭和 40 年度～平成 12 年度）について、九大予防医学古野教授との共同研究により、その生存率を調査させていただきました。幸い、検診で発見されたがん患者は、ほとんどの方々が助かるとの結果が得られました。

このような調査は国内でほとんど行なわれていないため、日本癌学会関係者からも高い評価をいただきました。近いうちに詳細を含め学術論文として発表する予定に致しております。

我が国のがん検診は、この 10 年間に欧米に比べて著しく遅れをとったことが指摘されています。最も大きな問題は検診の受診率が非常に低いことですが、さらに最近の問題は、精度管理が不十分でがん発見率の劣る検診実施機関が、低価格を武器にして急速に増大していることです。そのようなデータについても展示の中に示しました。ご参考にしていただければと思います。

最後になりますが、本調査にご協力をいただきました福岡県内各市町村に対し、改めて深甚の謝意を表する次第です。

敬具

小郡三井医師会より

担当理事 蒲池 壽



日本癌学会市民公開講座 特別企画展示

県民とともにがん征圧を

(財)福岡県対がん協会

これからも増えるがん死

我が国における2003年のがん死は30万9千人で、全死亡の約30%を占め死因の第1位となっています。

人口の超高齢化とともに、がん死はこれからも増え続け、2020年には1.5倍の47万4千人に達すると予測されています。

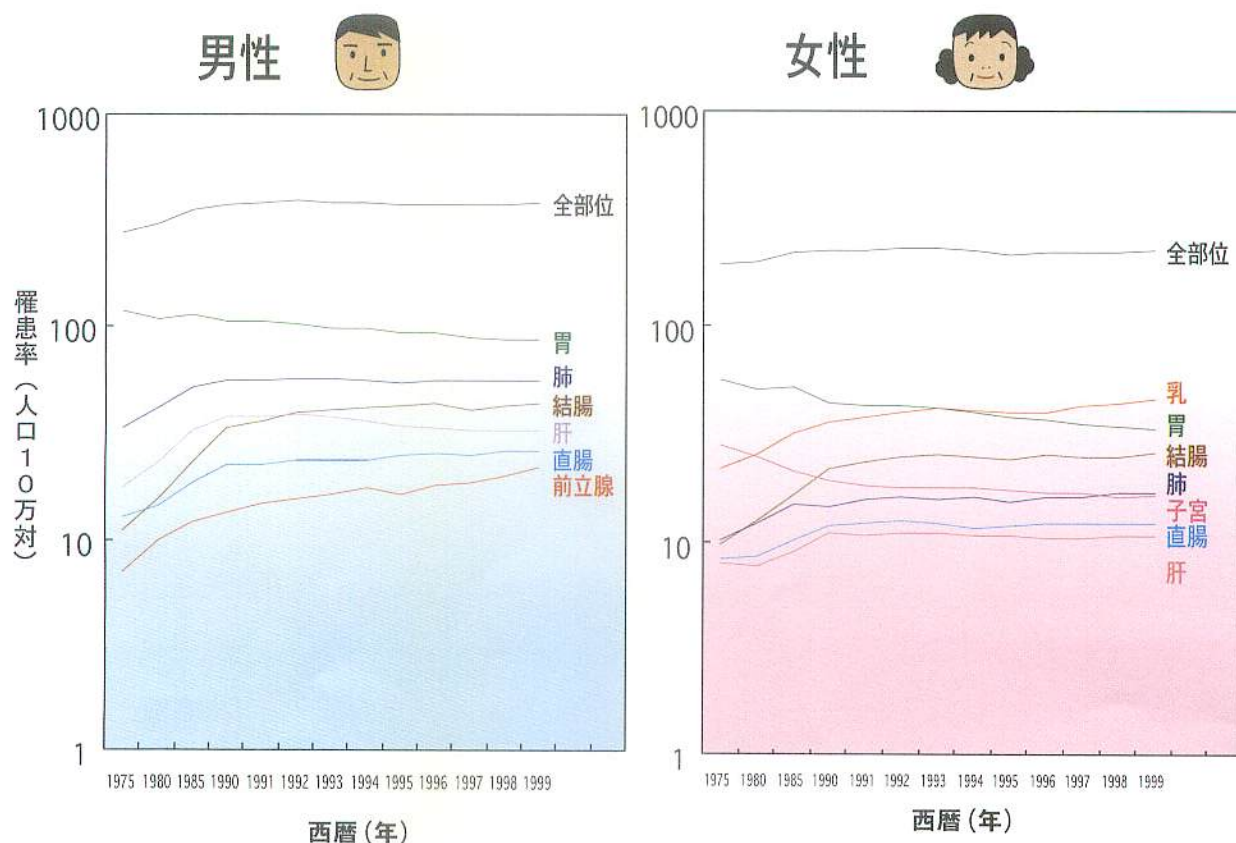
がん死亡者数

	2003年	2020年(予測値)*
全がん	309,543人	474,148人
男 性	186,912人	303,209人
女 性	122,531人	170,939人

*「がん統計白書2004」

どのがんが増えているか？

がんになる人の率(罹患率)では、男性では肺がん、大腸(結腸+直腸)がん、前立腺がん、女性では乳がん、大腸がん、肺がんが増えています。



がんを防ぐには？

- 生活習慣を改めるなどにより、がんにならないようにする
(がん罹患を防ぐ)
- 検診を受けて、早期発見・早期治療し、がんを治すようにする
(がん死を防ぐ)

がんの原因

がんの50～70%は、喫煙、運動不足、不適正な食事などの生活習慣に起因するとされています。



がんにならないようにしましょう！

がんの50%以上は、生活習慣の改善で予防できるとされています。

- タバコを吸わない(喫煙は原因の30%)

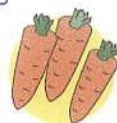


日本人男性の喫煙率は2002年において46%と、先進国では際立って高く、女性の喫煙者も増えています。

アメリカ人男性では同年で26%であり、2010年までに全体で12%に引き下げる目標を立てています。

- 生活習慣を改める

- ・過度の飲酒はひかえましょう。
- ・正しい食事(十分な量の野菜・果物,低脂肪,運動に見合った総カロリー量)を摂りましょう。
- ・適度の運動をしましょう。
- ・適正な体重を維持しましょう。



がん検診を受けましょう!

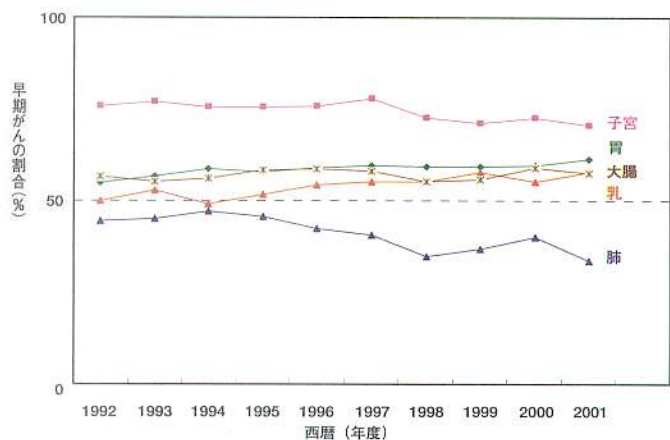
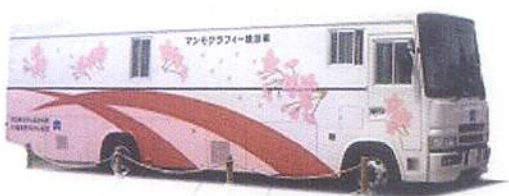
がん検診により、がん死を防ぐことができます。

アメリカでは、がん検診によって、乳がん、子宮がん、大腸がんの死亡が減少したことを科学的に立証しています。

日本でも、厚生労働省の研究班が、胃がん、大腸がん、子宮がん、乳がん、肺がん、肝がん検診の有効性を正式に認定しています(1998年久道班報告書)。

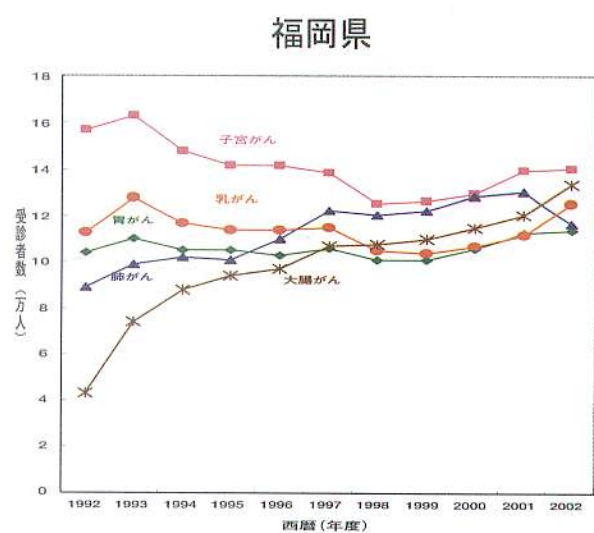
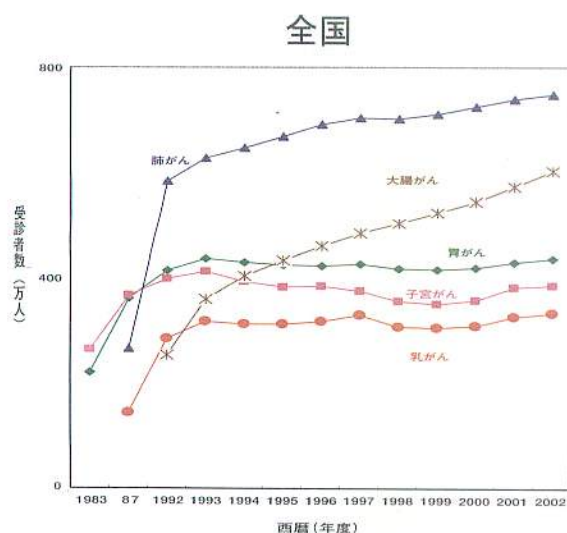
がん検診で発見されるがんの半分以上は、早期がんです。

(肺がんを除く。日本対がん協会データ)



がん検診はこれだけ実施されている

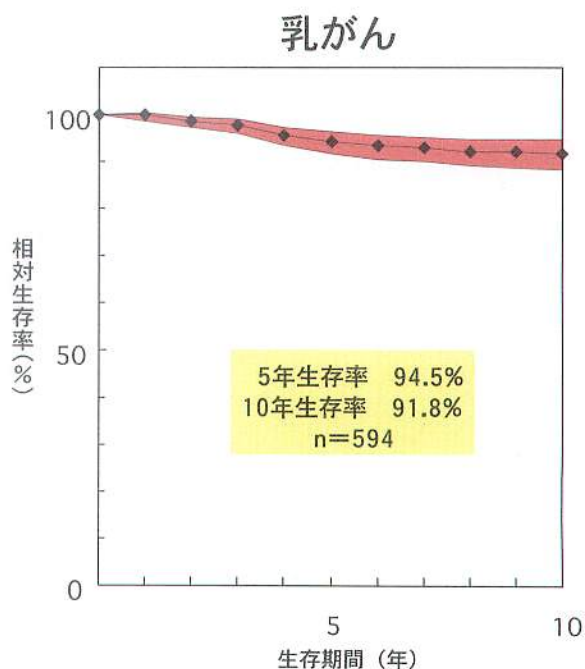
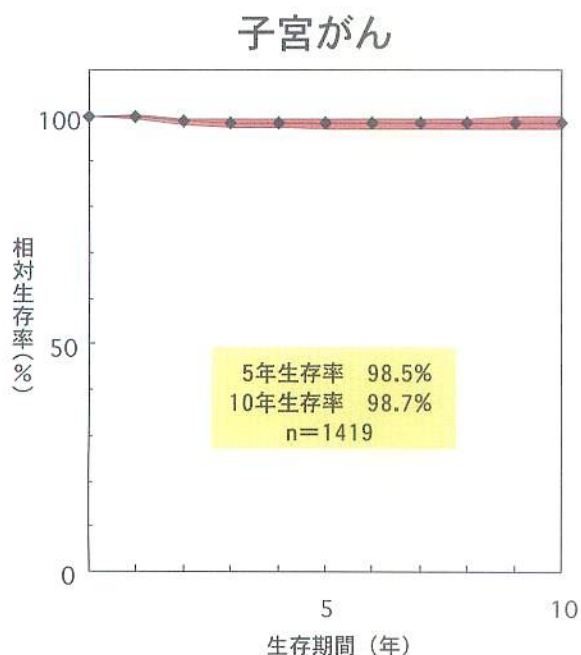
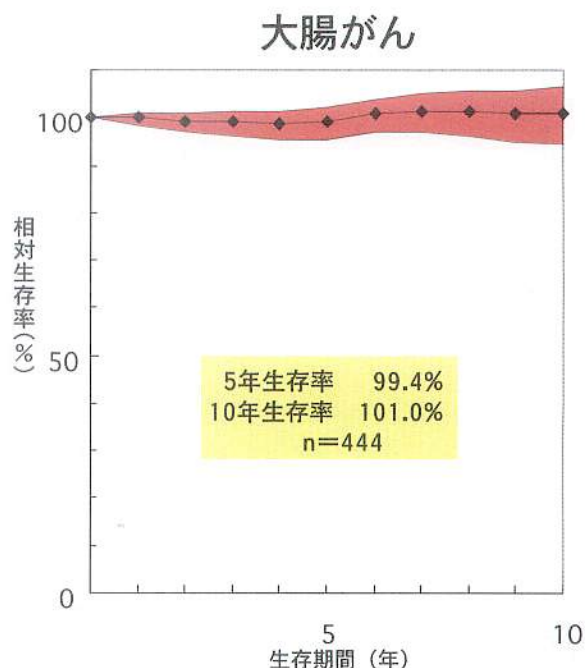
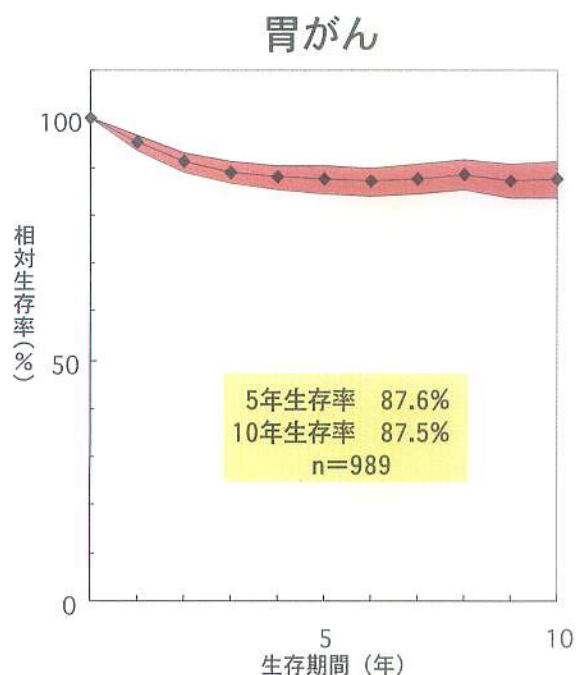
がん検診は、昭和35年(日本対がん協会)に開始され、老健法により普及し、現在の年間受診者数は、全国で延べ約2511万人、福岡県で延べ約63万人となっています(2002年度:厚生労働省、地域保健老人保健事業報告)。



がん検診受診者数の推移

がん検診を受けるとこれだけ助かります！

検診発見がんの患者は、治療後の成績が良く、子宮がん、乳がん、大腸がんでは**10人中9人**が、胃がんでは**10人中8人**が治っています。



検診発見がんの相対生存率

福岡県対がん協会調査（九州大学大学院医学研究院予防医学との共同研究）

対象：同協会検診発見がん 4086例（1967. 4-2001. 3）のうち転帰及び転帰の日付が明らかでない例を除く3446例

調査日：2004. 7. 31 現在

検診でがん死にストップをかけるために

○検診受診率を向上させよう!

有効性が確認されている検診の場合、対象者の大部分(60%以上)が検診を受ければ、がん死にストップをかけることができます。アメリカでは、検診受診率を70~80%の高率に引き上げることによって、がん死の減少に成功しています。

日本では、検診受診率が12~23%と著しく低いので、受診率を大幅に向上させる必要があります。

がん検診受診率の日米比較

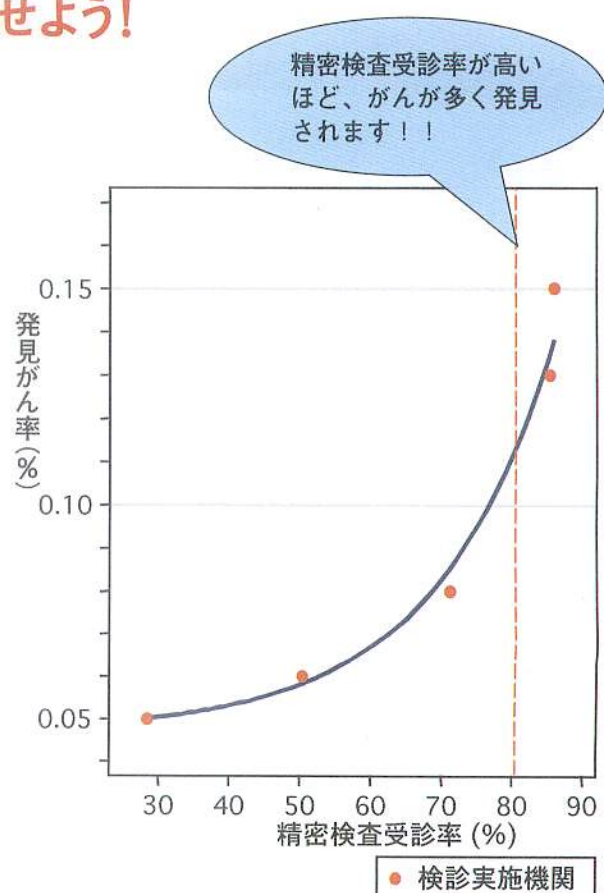
	子宮がん	乳がん	大腸がん	胃がん	肺がん
日本(2002)	15%	12%	17%	13%	23%
アメリカ(2000)	81%	70%	30%	-	-

○精密検査受診率を向上させよう!

検診のがん発見率は、精密検査受診率と正の関係があります。精密検査受診率は、少なくとも80%以上に保つことが重要です。

精密検査受診率は、検診実施機関によってかなりばらつきがみられ、50%以下の機関も存在しています(福岡県、右図参照)。

検診機関が受診者の管理や連絡を細かに行い、高い精密検査受診率を保つよう、都道府県による市町村の指導強化が求められます。



がん発見率と精密検査受診率の関係

がん検診はどのように行われているのか？

●がん検診の流れ

- ・市町村は、がん年齢に達した「検診対象者」を割り出し、検診を受けるように対象者に通知します。
- ・通知を受けた「検診対象者」は、「検診」を受けます。この際、「**検診の未受診者**」が多い(80%前後)のが問題です。
- ・検診で「**要精密検査**」と判定されたひとは、指定された医療機関で「**精密検査**」を受けねばなりません。「**精密検査の未受診者**」が少なくないのも問題です。
- ・精密検査で「**がん**」と診断されると、専門病院でがんの「**治療**」を受けることになります。「**治療放置者**」も時にみられます。
- ・検診には、集団検診と個別検診があります。
- ・検診の費用は、公費により国と市町村が大部分を負担しますので、個人負担は1～3割程度で済みます。

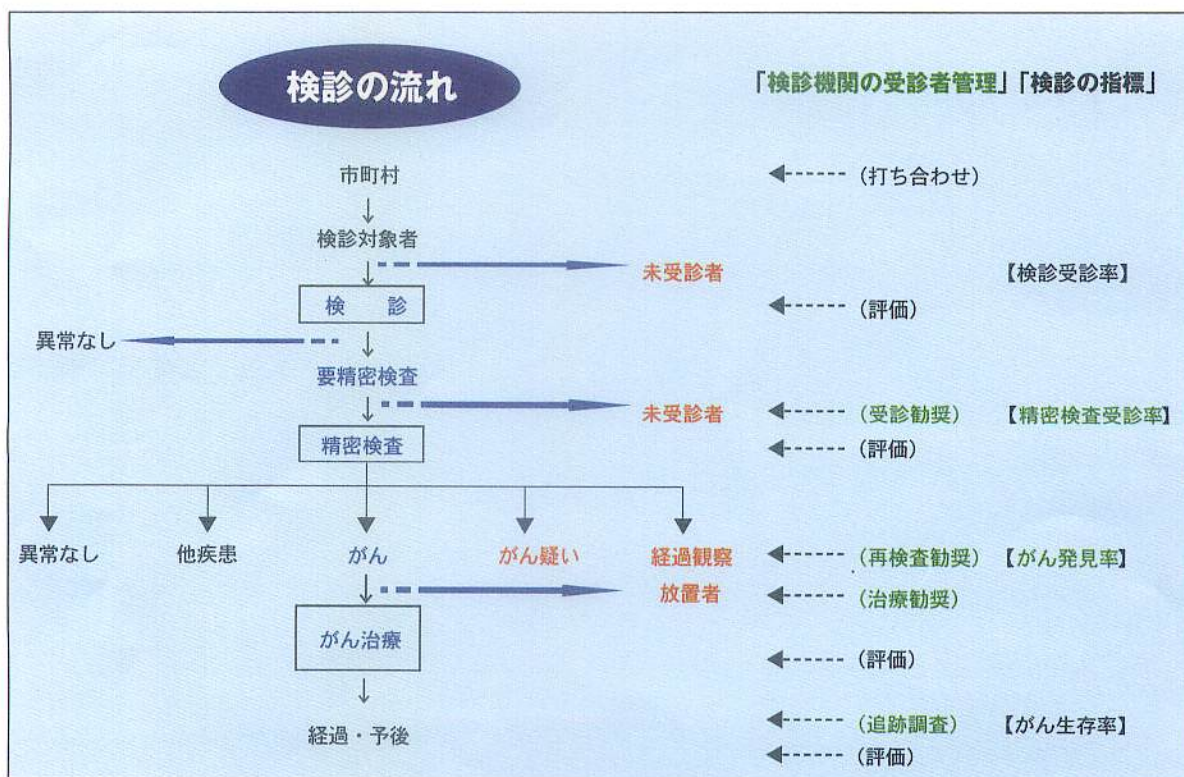
●検診実施機関の役割

- ・検診は、多くの場合、市町村から委託された検診実施機関が行っています。
- ・検診機関は、検診を行い、その評価結果を受診者に通知するとともに、市町村へ提出します。
- ・検診機関は、次のような「**検診者の管理**」をきめ細かく行わねばなりません。
 - ①検診で「**要精密検査**」と判定されたひとに、**精密検査の受診を薦める**
 - ②「**精密検査未受診者**」に精密検査の検診を促し、精密検査受診率を向上させる
 - ③精密検査で「**がん疑い**」、「**要経過観察**」と判定されたひとが、**再検査を受けるように促す**
 - ④がんと診断されたにもかかわらず治療を受けずにいる「**がん治療の放置者**」に、治療を促す
 - ⑤「**がん治療**」を受けたひとの**追跡調査**を行い、生存率を調査する
- ・検診機関は、検診で行うスクリーニング検査の精度を保持しなければなりません。

●検診の精度管理

- ・がんをもれなく発見するためには、検診の精度を高く保持する「**精度管理**」が欠かせません。
- ・検診の精度を高めるには、「**検査そのものの精度**」とともに、「**受診者管理の精度**」を向上させることが重要です。
- ・検診実施機関が行う「**受診者管理**」の精度を評価する指標として、「**精密検査受診率**」が有用です(通常85%以上)。
- ・「**精密検査受診率**」は、「**がん発見率**」と正の関係があります。
- ・検診実施機関は、「**がん発見率**」を高めるために、「**受診者管理**」の精度を高めねばなりません。
- ・**都道府県**は、市町村に対し、検診機関が行う検診の精度管理について指導することになっています。その指導強化が望まれます。

がん検診の流れと精度管理



「ストップ・ざ・がん死運動」

ボランティア大募集!

【趣 旨】

増え続けるがん死にストップをかけるには、すべてのひとが、若い時から生活習慣を改善し、がん年齢になったらがん検診を受けるように、働きかけねばなりません。その実現には、県民参加によるがん制圧運動が必要です。アメリカのがん制圧運動は、300万人のボランティア参加のもとに進められ、素晴らしい効果をあげています。

福岡県対がん協会では、その一助として、県民の皆さまに参加していただき、皆さまとともに「ストップ・ざ・がん死運動」を始めることにしました。

【資 格】

「ストップ・ざ・がん死」運動に、ボランティアとして参加できる人。

年齢、性別は問いません。若い主婦の方、お仕事をリタイアされてボランティアを考えていらっしゃる方、がんを経験された方など。

【活動内容】

福岡県対がん協会が開く数回の講習会に参加していただき、修了証を発行いたします。その後、ご住居の地区で、がん検診の重要性を住民の方々に伝えてもらいます。

また、がんに関するミニ集会などの企画に携わっていただきます。

ご希望の方は



財団法人 福岡県対がん協会



092 (281) 2381

までご連絡下さい。

